

# 美術博物館だより

News Letter From Tomakomai City Museum



## 目次 Contents

### 01 特集 特別展

開館1周年記念特別展「青森県立美術館コレクション展  
アオモリ・アヴァンギャルド：堆積する創造のエネルギー」

02 夏休み！子どもウィーク

02 活動紹介 平成26年度展示室の貸出し事業について

02 クローズアップ 苫小牧の市民参加型タンポポ調査について

03/04 報告 平成26年度事業記録

04 クローズアップ 教員のための博物館の日 in 苫小牧

05 コラム 「宮沢賢治の世界をアートする2014」展

賢治が創作した詩・佐藤国男さんのことなど

05 ミニコラム①／ミニコラム②

06 コラム 堆積する創造のエネルギー：2014年夏、苫小牧×現代アート

06 勇武津資料館通信

07 館長コラム／平成27年度展示会情報／PR 次回特別展

07 収蔵品紹介 展示室から

特集  
特別展

開館1周年記念特別展  
「青森県立美術館コレクション展  
アオモリ・アヴァンギャルド：  
堆積する創造のエネルギー」  
■ 2014年7月19日～9月15日

縄文文化を源流とする青森と苦小牧は、古くは縄文時代から現在にいたるまで、地域的・文化的交流があり、密接なつながりを有しています。特別史跡「三内丸山遺跡」に隣接する青森県立美術館は、地域ゆかりの作家の作品を中心に収集するほか、縄文遺物を常設展示するなど、複合施設である当館と共通する点があります。美術博物館の開館1周年を記念し開催した今年度の特別展では、そうした青森県立美術館より貴重なコレクションを拝借のうえ展覧しました。

コレクションのみならず、スタッフのユニフォーム、展覧会ポスター、そして会場のサイン等までお借りした今回の特別展。セクション1「拡張する美術館：青森県立美術館の建築とV.I.」では、ホワイトキューブの再現やオリジナルフォントを用いたサイン、ピクトグラムなどを展示し、明確なコンセプトとルールによって規定された同館の建築やデザインを紹介しました。セクション2「“アオモリ”に堆積する前衛精神」では、寺山修司の「天井桟敷」のポスターや映像作品といったヴィジュアルイメージをはじめ、工藤哲巳のオブジェ、そして小野忠弘のジャンク・アートなど、強烈な個性を放つ作品群を展示。本州最北端に位置する“アオモリ”ならではの多彩な前衛

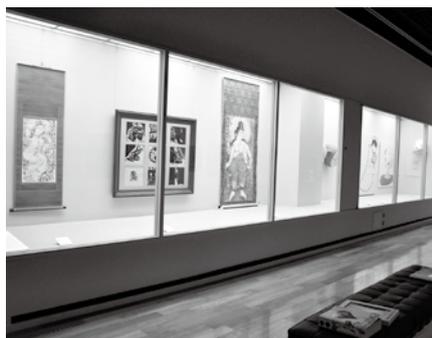


表現をご覧くださいました。さらに、セクション3「異貌の星たち：内なる創造のエネルギー」では、対象とするモチーフに自己の内面世界を重ね合わせるかのような作風を見せる棟方志功、奈良美智、そして阿部合成らを紹介。独自の表現を切り開きながらも、高い評価を得ているアーティストの優品を展示しました。そして、セクション4「Aomori Blue：縄文／鳥瞰／越境」では、青森県立美術館のコレクションとあわせて、映像作家・伊藤隆介（特別出品作家）のビデオ・インスタレーション作品を展示。「青森県立美術館」をテーマとする伊藤の同作《Aomori Blue》は、「縄文」の地に立地する同館の場所性や、そこに着想を得た建築コンセプト、さらにはその美術館機能自体を「縄文」から「現代」という時間軸をも含めて抽出しようとする作品で

したが、鈴木理策の同館をモチーフとする写真作品や、今純三の同時代の風俗への執拗なまでの“まなざし”が感じられる版画作品、そして吉田初三郎の鳥瞰図といったイメージが、それぞれの境界を越えて響きあう壮大なインスタレーションとなりました。

今回の特別展の出品作品は、いずれも“アオモリ”という土地に堆積する“創造のエネルギー”に満ちたものでした。本展の開催を通して、「芸術」という枠組みに収まりきれない前衛精神が、やがてアートの最先端として受容され、いかにして時代の「表現」を突き動かしてきたのかということを変えて認識する機会になったのではないのでしょうか。

細矢 久人（学芸員／美術）



展示解説を行う板倉容子氏  
（青森県立美術館学芸主査）

特集  
特別展

夏休み！子どもウィーク



2014年8月12日(火)～17日(日)に、文献コーナーで、毎日様々なイベントに参加いただける「夏休み！子どもウィーク」を開催しました。「オープンアトリエ」のコーナーでは、特別展に出品された小野忠弘の“ジャンク・アート”に関連して、牛乳パックや端切れやボタン、ビーズなど身の回りにある使わなくなったものを材料に、「へんてこ生物」作りを行いました。はじめに皆で展示室へ行き、展示作品に見ることのできる「へんてこ」なモチーフを観察、それらをヒントに思い思いの生物を作ります。工作は、初級・中級・上級と難易度にわけた内容を用意し、親子で参加する家族、全ての難易度に挑戦する姿、友達同士で参加する中学生…と様々な姿がみられました。ワークショップの後にもう一度展示室に戻り、感じたことを話しあいながら作品を鑑賞する子どもたちの姿も、とても印象的でした。工作コーナーでは、その他牛乳パックを使ったサンバイザーなどもつくりました。

また、会場には「むかしの遊びコーナー」も設置しました。昭和30～40年代の暮らしをイメージした展示も行い、当時の暮らしの雰囲気を来場した方々に味わっていただきました。けん玉やコマ、お手玉など、これらは、昔は身近にあったおもちゃですが、子どもたちには新鮮であったようです。お盆時期の開催ということもあり、家族連れや祖父母に連れられる子どもたちの姿を多く見かけましたが、大人たちも真剣にけん玉やお手玉に挑戦していました。

平成26年度の「夏休み！子どもウィーク」には、6日間で271名の参加がありました。会期中は、ボランティアの方にオープンアトリエで子どもたちの対応の補助をお願いしたことで、多くの参加者にもかかわらずトラブルもなく終えることができました。「夏休み！子どもウィーク」は、27年度も引き続きお盆時期の開催を予定しています。

福田 絵梨子 (学芸員/美術)

活動紹介  
平成26年度  
展示室の貸出し事業について

当館では、美術館施設を設置する際に掲げた、「市民に開かれた美術館」「文化芸術活動の拠点としての美術館」という基本理念に基づき、ワークショップ等の意見を取り入れました。その中で、市内で創作活動の実績のある個人や団体等に発表の場を提供することを目的として、「苫小牧市美術博物館展示室貸出基準」等を定め、一定の期間を設けて展示室を貸出しし、市民ギャラリーとして活用してもらう事業を平成26年度より実施することとしました。

今回は、平成25年10月より募集を開始し、応募のあった4個人・1団体に平成26年4月1日から各1週間ずつ3週にわたり、当館として初めての展示室の貸出しを実施しました。

初回の貸出しということで、細かな点で主催者と協議をしながら進めていく場面もありましたが、短期間の展覧会で

あったにもかかわらず、主催者の予想を上回る観覧者があり、満足のいく展覧会であったと伺っています。

今回の展示室の貸出事業は、平成27年3月25日から4月14日に実施され、その後も毎年1回の実施を予定しています。

片石 秀伸 (副館長)

(平成26年4月展示室貸出事業結果報告)

申請者 (5件)	展示室	開催期間	展示内容	来場者数 (主催者集計)
1 佐藤 静子	1	4/2～4/6	佐藤フサ子回顧展 (絵画)	624人
2 小崎 彩秋	2	4/3～4/6	小崎彩秋陶芸展	500人
3 土倉 龍子	3	4/3～4/8	レザークラフト 土倉龍子 個展	480人
4 苫小牧美術協会	1/2/3	4/10～4/15	苫小牧美術協会春季展 (会員作品)	700人
5 柏 永秀	3	4/16～4/20	柏永秀「歓喜世界」展 (絵画)	300人

クローズアップ  
苫小牧の市民参加型タンポポ調査について  
(共催：苫小牧市博物館友の会)

2014年の5月から6月にかけて、当館博物館友の会と共催で、市民参加型のタンポポ調査を実施しました。4月29日に「調査説明会」を行ない、新聞やホームページでも「調査協力」を呼びかけました。タンポポは、身近な地域や森林、緑地帯を観察し、「在来種」と「外来種」について考えるきっかけを与えてくれる、身近な植物です。調査期間は、在来種のタンポポの開花期にあたる、5月中旬から6月中旬で、そ

の間、「たんぽぽ通信 (速報含む)」を計5回発行し、報告会の出席者や情報提供者に郵送しました。結果、大人から子どもまで、約40名以上の方が調査に参加していただき、183件の情報が集まりました。

10月5日に報告会を実施し、博物館友の会の村上事務局長、そして調査者の中から3名の方に、ご自分の調査の報告をしていただきました。「在来種のタンポポは減少したといわれていたが、見つかって嬉しかった」「生育場所にばらつきがあったので、不思議だ」という意見が見られました。エゾタンポポは、比較的明るい林内 (特に林縁部) に生育し、単立して生育しているケ-

スが多く、この結果は、当館の研究報告にまとめ、皆で集めたデータとして大事に継ぐ予定です。もし、今後も再度調査をすることができれば、今年の結果と比べ、タンポポの推移について皆さんと一緒に考える機会になると思います。

小玉 愛子 (主任学芸員/植物)



タンポポ調査報告会

# 報告

## 平成26年度 事業記録

### 展示事業

#### 特別展

##### ■青森県立美術館コレクション展 アオモリ・アヴァンギャルド：堆積する創造のエネルギー

会期：平成26年7月19日(土)～9月15日(月・祝)

入場者：5,804名

特別協力：青森県立美術館

特別出品：伊藤隆介氏

後援：一般社団法人 苫小牧観光協会／北海道新聞 苫小牧支社／株式会社 苫小牧民報社

①オープニングセレモニー

日：7月19日(土)

参加者：96名

②青森県立美術館学芸員による記念講演会

講師：板倉容子氏(青森県立美術館 学芸主査)

日：7月19日(土)

参加者：51名

③Music in Museum by 出光 時代の鼓動

(主催：出光興産株式会社)

日：7月26日(土)

参加者：700名

④ワークショップ「光の箱をつくらう！」

(主催：アートフェスティバル実行委員会)

講師：松村泰三氏(美術家)

日：7月26日(土)

参加者：112名

⑤ワークショップ「アニメーションをつくらう」

講師：伊藤隆介氏(美術・映像作家／北海道教育大学教授)

日：8月9日(土)

参加者：38名

⑥夏休み！子どもウィーク

会期：8月12日(火)～8月17日(日)

対象：小中学生

参加者：271名

⑦ギャラリートゥアー

日：8月23日(土)、9月6日(土)

参加者：48名

#### 企画展

##### ■美沢川流域の遺跡群～美々・美沢～

会期：平成26年5月3日(土・祝)～6月8日(日)

入場者：2,686名

協力：北海道立埋蔵文化財センター／千歳市埋蔵文化財センター

##### ■宮沢賢治の世界をアートする2014

～佐藤国男の版画を中心に～

会期：平成26年5月3日(土・祝)～6月29日(日)

入場者：3,686名

共催：北海道立文学館／宮沢賢治ワールド in 苫小牧 2014 実行委員会

協力：苫小牧港開発株式会社

①佐藤国男ギャラリートーク

日：6月1日(日)

参加者：66名

②朗読とカンテレの調べ(共催：北海道立文学館)

出演：村井裕子氏(フリーアナウンサー／朗読講師)、あらひろこ氏(カンテレ奏者)

日：6月8日(日)

参加者：84名

##### ■こどもとおとなの美術展 木と石にあそぼう

会期：平成26年9月27日(土)～11月3日(月・祝)

入場者：4,216名

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞 苫小牧支社／株式会社 苫小牧民報社／株式会社 三星

①アーティストとはなそう！

講師：国松希根太氏(木彫家)、田村純也氏(石彫家)

日：10月11日(土)、10月25日(土)

対象：小学生～

参加者：29名

②よみかきせ in ミュージアム

日：10月12日(日)、10月26日(日)

対象：幼児～

参加者：40名

③わくわくギャラリートゥアー

日：11月3日(月・祝)

対象：小中学生

参加者：35名

④オープンアトリエ

監修：池田祐太氏(木彫家)

日：随時

⑤企画展アウトリーチ事業「みゅーじあむ in スクール」

招聘作家：田村純也氏(石彫家)

対象：市内各小中学校5校

参加者数：498名

##### ■浮世絵の魅力・三代豊国 誠忠義士傳

会期：平成26年11月15日(土)～12月14日(日)

入場者：1,502名

協力：小樽市総合博物館

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞 苫小牧支社／株式会社 苫小牧民報社／株式会社 三星

①ギャラリートーク

日：11月24日(月・祝)、12月6日(土)

参加者：44名

②記念講演会「[忠臣蔵]から考える仇討ちの物語」

講師：山本侑奈氏(小樽市総合博物館 指導員)

日：11月29日(土)

参加者：55名

③ミュージアムシアター

上映作品：[元禄忠臣蔵(前編・後編)](1941・1942年公開)

日：12月7日(日)、12月14日(日)

参加者：56名

##### ■苫小牧の美術史～苫小牧美術協会とその歩み

会期：平成26年12月23日(火・祝)～平成27年1月25日(日)

入場者：1,182名

協力：苫小牧美術協会／NPO法人樽前arty プラス／一般社団法人A I Sプランニング／トヨタ自動車株式会社／NPO法人ねおす(いぶり自然学校)

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞 苫小牧支社／株式会社 苫小牧民報社／株式会社 三星

①ギャラリートーク

日：12月23日(火・祝)、12月27日(土)、1月11日(日)、1月24日(土)

参加者：84名

②ワークショップ+成果展示「遠藤ミマンのロマン!キラキラの未来!」

ア) ワークショップ

講師：藤沢レオ氏(金属工芸家・彫刻家)

日：12月23日(火・祝)

対象：小学生～

参加者：17名

イ) 成果展示

会期：12月25日(木)～12月28日(日)

観覧者：117名

③講演会「苫小牧美術協会とその歩み」

講師：内海光尚氏(苫小牧美術協会 会長)

日：1月10日(土)

参加者：50名

##### ■アイヌ文化を育んだ自然～カムイ宿る北の大地～

会期：平成27年2月7日(土)～3月22日(日)

入場者：1,279名

協力：北海道大学苫小牧研究林／北海道開拓記念館／北海道立アイヌ民族文化研究センター／伊達市噴火湾文化研究所／一般財団法人アイヌ民族博物館／北海道大学附属図書館

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞 苫小牧支社／株式会社 苫小牧民報社／株式会社 三星

①アイヌ民族音楽ワークショップ(アイヌ文化振興・研究推進機構補助事業)

講師：kapiw&apappo(床絵美氏／郷右近富美子氏)

日：2月7日(土)

参加者：106名

②ギャラリートーク

日：2月8日(日)、2月11日(水・祝)、2月15日(日)、2月28日(土)、3月7日(土)、3月21日(土・祝)

参加者：48名

③アイヌ刺繍ワークショップ

講師：石田慈久恵氏(アイヌ民族博物館 教育普及係長)

日：3月7日(土)

参加者：34名

④アイヌ文様切り絵をつくってみよう(共催：苫小牧市博物館友の会)

日：3月8日(日)

参加者：47名

⑤アイヌの遊びをやってみよう(共催：苫小牧縄文会)

日：3月15日(日)

参加者：34名



## 中庭彫刻展

### ■中庭展示 vol.3 首藤晃

会期：5月3日(土)～8月17日(日)

#### ①アーティストトーク

講師：首藤晃氏(彫刻家)

日：5月3日(土・祝)

参加者：22名

### ■中庭展示 Vol.4 千代明

会期：9月27日(土)～1月25日(日)

#### ①アーティストトーク

講師：千代明氏(彫刻家・画家)

日：11月23日(日・祝)

参加者：21名

## 普及事業

### ■美術博物館大学講座

対象：一般(登録者数：153名)

#### ①入学式・「弁天・安平川・湿原と環境への役割」

講師：矢部和夫氏(札幌市立大学 教授)

日：6月28日(土)

#### ②「アンモナイトとその仲間たちの自然史」

講師：棚部一成氏(東京大学 名誉教授)

日：7月12日(土)

#### ③「絶滅危惧種・カワシヅメガイ類の話」

講師：栗倉輝彦氏(元旧北海道立水産孵化場長)

日：8月2日(土)

#### ④「アイヌ文化に由来する名勝ピリカ・ノカ～絵鞆半島外海岸～」

講師：松田宏介氏(室蘭市教育委員会)

日：9月20日(土)

#### ⑤「日本製鋼所と瑞泉鍛冶所～堀井家160年の作刀技法～」

講師：堀井胤匡氏(株式会社日本製鋼所室蘭製作所 瑞泉鍛冶所 刀匠)

日：10月18日(土)

#### ⑥「古い絵はがきで巡る苫小牧」

講師：武田正哉氏(苫小牧市美術博物館 学芸主査)

日：11月22日(土)

#### ⑦「胆振地域の貝塚から読み解く古環境」

講師：宮地 鼓(苫小牧市美術博物館 学芸員)

日：12月6日(土)

#### ⑧「蠣崎波響 筆「夷酋列像」について」

講師：春木晶子氏(北海道開拓記念館 学芸員)

日：1月17日(土)

#### ⑨卒業式・「遠藤ミマンと苫小牧美術協会」

講師：三村伸氏(苫小牧市科学センター 主査)

日：2月28日(土)

### ■博物館クラブ

対象：小中学生(登録者数：17名)

#### ①開講式・ビーチコーミングをしよう

日：6月7日(土)

#### ②海藻で標本を作ろう

日：7月21日(月・祝)

#### ③美術展ワークショップに参加しよう

日：8月9日(土)

#### ④苫小牧の植物を観察しよう

日：9月6日(土)

#### ⑤木のかおりを取り出そう

日：12月20日(土)

#### ⑥「アイヌ刺繍ワークショップ」に参加しよう・修了式

日：3月7日(土)

### ■美術館広報部びとこま

対象：小中学生(登録者数：17名)

### ■ミュージアムラボ

対象：一般

#### ①土器作りをしよう(共催：苫小牧市博物館友の会)

日：5月18日(日)

参加者：33名

#### ②恐竜バラタクソノミスト養成講座(初級) in 苫小牧「恐竜はかせをめざそう！」(共催：北海道大学総合博物館)

講師：田中公教氏(北海道大学大学院理学研究院 院生)

日：8月3日(日)

参加者：28名

#### ③美術講座「ワークショップ：棟方志功に学ぶ木版画制作」

講師：上田政臣氏(札幌芸術の森クラフト工房 版画専門員)

日：9月7日(日)

参加者：20名

#### ④美術講座「日本近代美術への招待」

日：1月24日(土)

参加者：30名

#### ⑤「鹿笛をつくる」

講師：栢谷隆男氏(北海道札幌拓高等学校 教諭)

日：2月21日(土)

参加者：27名

### ■無料開放日

#### ①ゴーゴーミュージアム

日：5月5日(月・祝)

参加者：793名

#### ②秋の美術博物館開放日

日：11月3日(月・祝)

参加者：1,049名

### ■見学会・観察会

#### ①自然観察会「勇払原野再探訪」

対象：一般

日：10月25日(土)

参加者：28名

#### ②芸術探訪「アートと旅する500年」

対象：一般

日：9月13日(土)

参加者：40名

### ■みんなで調べよう～タンポポ調査2014～

(共催：苫小牧市博物館友の会)

#### ①みんなで調べよう～タンポポ調査2014～

期間：5月20日(火)～6月15日(日)

### ②報告会

日：10月5日(日)

参加者：41名

### ■郷土学習

期間：9月～11月

対象：市内小学校23校3・4年生

### ■サイエンスカフェ

#### ①ホネノヒミツ

講師：佐藤真理氏(北海道大学歯学研究院 助教)

日：8月31日(日)

参加者：41名

#### ②分子の化石、バイオマーカー

講師：中村英人氏(北海道大学大学院理学研究院 博士研究員)

日：11月8日(土)

参加者：17名

#### ③フィールドから探る地球史：～海底に沈む謎のコハク～

講師：久保田彩氏(北海道大学大学院理学研究院 院生)

日：3月14日(土)

参加者：22名

### ■教員のための博物館の日

(共催：国立科学博物館、日本博物館協会)

後援：文部科学省、北海道教育委員会)

日：2015年1月9日(金)

対象：周辺地域の教員等

参加者：40名

### ■出前講座・講師派遣

日：随時

実施：13件(平成27年度3月末現在)

※各事業の入場者・参加者数は平成27年3月22日現在のものとする。

※展示事業一覧は、企画展名、会期、入場者数、関連イベントを記載。

※明記の無い事業の主催は全て当館(苫小牧市、苫小牧市教育委員会)による。

※協力等は該当事業のみ記載。

※講師未記載は全て当館学芸員が担当。

## その他

### ■展示室貸出事業

#### ①「佐藤フサ子回顧展」

会期：4月2日(水)～6日(日)

#### ②「小崎彩秋陶芸展」

会期：4月3日(木)～6日(日)

#### ③「レザークラフト土倉龍子個展」

会期：4月3日(木)～8日(火)

#### ④「苫小牧美術協会春季展」

会期：4月10日(木)～15日(火)

#### ⑤「柏永秀 歡喜世界展」

会期：4月17日(木)～20日(日)

## クローズアップ 教員のための博物館の日 in 苫小牧



常設展示解説会

美術博物館には、学校の授業に役立つ学習資源がたくさんあります。学校の先生に「美術博物館に親しみを持ってもらうこと」、「美術博物館の学習資源を活用してもらうこと」を目的として、1月9日に「教員のための博物館の日 in 苫小牧」を開催しました。このイベントは国立科学博物館が中心となり、全国各地で開催されています。

第1回目の今回は、ミニシンポジウムで、国立科学博物館の小川義和学習企画・調整課長より「学校教育における博物館の活用」をテーマに、博学連携の意義についてご講演いただき、福田学芸員より当館での連携事例を紹介しました。そのほか、常設展・企画展の解説会、収蔵資料や学芸員それぞれの研究成果を生かした授業で使える話題提供、さらにかはくミニ企画展示

「ダーウィンフィンチーガラパゴス諸島で進化を続ける鳥ー」ではダーウィンの進化論に大きな影響を与えたダーウィンフィンチ類のバードカービングを展示するなど、様々なプログラムを実施しました。

当日は市内の教員を中心に、40名の参加者から多くの意見や感想をいただきました。子どもたちに科学の不思議さ、歴史の面白さ、美術の味わいなど、学ぶ喜びを感じてもらうため、学校と“つながる”ことの重要性を再認識した1日となりました。今後も「先生が子どもに戻って、美術博物館を楽しむ日」として、内容を充実させながら継続していきたいと思っております。

宮地 鼓(学芸員/地質・鉱物)

## コラム

### 「宮沢賢治の世界をアートする2014」展

#### 賢治が創作した詩・佐藤国男さんのことなど

大正13(1924)年に宮沢賢治が修学旅行の引率教員として苦小牧を訪れ、「春と修羅・第2集」所収の「牛」という詩を創作したことは、ご承知の方も多いようです。節目の年にあたった昨年は実行委員会が宮沢賢治学会の地方セミナーを誘致し、映画監督の高畑勲さんを講師に招いた記念講演を実施。道内はもとより全国から大勢の賢治ファンが集まりました。

企画展は来苦90周年の連携事業として、賢治の世界をテーマに木目を生かした温もりのある木版画を制作する佐藤国男さんの作品を中心に展示しました。出品依頼の際にお会いした佐藤さんは、自由で伸びやかな作品そのままに飾り気のない魅力的な人柄で、ギャラリートークの際には得意のギターもご披露いただきました。また、版画家であると同時に独自に縄文文化の研究に取り組み、同時開催の「美沢川流域の遺跡群-美々・美沢」展をご覧になり自らの縄文観を熱心に語られる姿がとても印象的でした。期間中は、市民グループによるギター演奏と賢治作品の紙芝居、村井裕子さんとあらひろこさんによる賢治作品の朗読とカンテレの演奏などの関連行事を実施しました。いずれも賢治作品の奥深さを伺うことができる内容で、講師、演奏者と参加者が一体となった素晴らしい時間を共有することができたと思います。また、北海道立文学館や北海道大学総合博物館のご協力を得て関連書籍や賢治作品に登場する鉱物資料を紹介したことも、展示全体に膨らみをもたらすものとなりました。

90年前に宮沢賢治がつくったひとつの詩から派生して、版画や文学作品、街の歴史などいくつもの切り口を紹介した本展は、博物と美術を結びつけることが可能な当館ならではの取組みでした。そして、ひとつの企画は、多くの人のつながりと支えにより成立することを改めて感じることができました。

武田 正哉 (学芸員(主査)/歴史)



### ミニコラム① 北アメリカ生まれの海浜植物 「～オニハマダイコン～」

去年の夏、勇払の砂浜海岸を歩いていると、オニハマダイコンが波打ち際にずらりと並んで生育しているのを見つけました。この植物は、原産地が北アメリカ東部の外来種で、海流によって運ばれた、とも、船に種が混入して運ばれた、とも言われています。葉や莖は肉厚で、ダイコンという名が入っているように、根を傷つくと、ほのかに「大根おろし」のような香りがします。秋が近くなると「いぼ状」の果実を体中につけます。日本では、1982

年に新潟県で初めて発見されて以来、分布域を拡大しています。北海道では日高の門別町(現・新ひだか町門別)で初めて発見され、長万部、網走などあちこちの海岸で目撃されています。ほかにも、韓国、サハリン、国後島、択捉島などでも確認されています。

オニハマダイコンが他の植物に与える影響は不明ですが、今後の影響が懸念されており「北海道ブルーリスト」のカテゴリーA3に登録されています。苦小牧でも、勇払海岸や有明～糸井の海岸で目撃されていました。例年実施している、勇払海浜の観察会の際にも確認していましたが、これからも長期的に観察をしていきたいと考えていま

す。

#### 【参考文献】

清水 建美(2003)日本の帰化植物 pp83-84. 平凡社  
五十嵐 博(2001)北海道帰化植物便覧 2000年版. 北海道野生植物研究所 p40  
北海道環境生活部環境局自然環境課(2010)北海道の外来種リスト  
福田 知子, 加藤ゆき恵, 佐藤 広行, A.Taran, V. Yu.Barkalov, 高橋 英樹(2013)国後・択捉島の海岸へのオニハマダイコン(アブラナ科)の帰化-千島列島からの初報告-(英文). 植物研究雑誌. 88:124-128

小玉 愛子(主任学芸員/植物)



オニハマダイコン

### ミニコラム② 「魚と生きる貝、カワシジュガイ」

カワシジュガイは、河川にすむ二枚貝です。アイヌの人びとは「ピパ」と呼び、食用にしたり、穀物の穂つみの道具にこの貝殻を使っていました。美唄をはじめ、「ピパ」に由来する地名がたくさんあるように、かつては北海道の多くの河川にすんでいました。しかし、近年は河川環境の変化により、その数はどんどん減り、絶滅危惧種に指定されています。

この貝の生態はとてもユニークで、幼生(子供)の時はサクラマスやイワナなどのサケ科の魚の鰓(えら)に寄生して育ちます。これらの魚がいないと生きていけない貝なのです。しかもカワシジュガイはとても長生きで、中には100年を超えて生きるものもいます。なぜこんなに寿命が長いのか、そしてなぜ生息数が減っているのか、カワシジュガイはまだまだ多くの謎に包まれています。これらの謎を解くために、今年から北海道大学の研究チームと、苦小牧を流れる川に生息するカ

ワシジュガイの調査を開始しました。結果はまたご報告しますが、昔この川で見たことある、など皆様からの情報もお待ちしています。

宮地 鼓(学芸員/地球科学)



カワシジュガイ調査

特別展「青森県立美術館コレクション展 アオモリ・アヴァンギャルド：堆積する創造のエネルギー」では、特別出品として映像作家・伊藤隆介のビデオ・インスタレーションを紹介しましたが、そのほかにも、同展の開催をひとつの契機として、現代アートの紹介を積極的におこないました。

2013年のリニューアル以降、各年度2回ずつ実施している中庭展示事業の第3回目（平成26年度・第一期）では、特別展との連動性をもたせ、鉄と木を主要な素材として機械的な生命体やオブジェなど異質なイメージを創造する彫刻家・首藤晃の作品を紹介しました。首藤は、青森県立美術館のコレクションと建築空間の新たな魅力を引き出すための継続的プロジェクト「×A（パイ・エー）プロジェクト No.8」（2009～10年）にも出品した経歴をもつ作家であり、特別展の会期と重なる時期に実施した同展示は、青森県立美術館のコレクションとのコラボレーションが再現されるかたちとなりました。

また、毎年夏に開催している市民参加型のアートイベント「文化公園アートフェスティバル2014」では、その一環として、全国各地で“光の箱”を用いたワークショップを実施している青森出身の松村泰三をはじめ、縄文土器に着想を得た“縄文太鼓”を制作し、演奏活動を展開している札幌在住の茂呂剛伸、そして滞り制作をベースにインスタレーションを発表している東北出身の狩野哲郎らを招聘するプログラムを企画しました。

その結果、特別展と並行して、当館のラウンジスペースにおける「“光の箱”成果展示」や、隣接する施設サンガーデンの植生を利用した「狩野哲郎インスタレーション」といった展示事業についても実現し、同時期に開催していた「札幌国際芸術祭2014」に関心のある層からも注目を集めるなど、高い相乗効果を得ることができました。

文化芸術活動を発信する拠点施設として、今後もアーティストの“創造のエネルギー”を体感できるような企画を展開していければと思います。

細矢 久人（学芸員／美術）



中庭展示「首藤晃－再生－」  
（会期：2014年5月3日～8月17日）

## 勇武津資料館通信

ふるさと歴史講座は「勇払千人同心の足跡を辿る」（10月）、「勇払原野に生きた人々」（11月）、「勇払原野のぞむ苦東遺跡群～勇払原野が海だったころ～」（2月）の3回が開催されました。

「勇払千人同心の足跡を辿る」は、平成25年に資料館友の会で訪れた様似町の等嵩院を見学した際に、30年ほど前、当時、あまり整備されていない様似山道を千人同心にあやかって歩いた人たちがいた、という説明を聞いてこの講座の企画を考えました。

寛政12年（1800）に八王子から蝦夷地・勇武津に移住してきた千人同心の歩いた道を、当時の国策パルプ（現日本製紙）の職員が中心となった「勇払冒険野郎」が、昭和59年に勇払から白糠へ、2年後の61年に函館から勇払への道を踏破した記録写真とビデオによる貴重な報告でした。多くの人が交代しながらリレー方式で歩き、無線機で連絡し合っただけでキャンプ地や食料の調達をしたようです。千人同心が来た時もいくつもの難所があったはずで、それを実際に感じようという、勇払の人たちがいかに千人同心に思い入れがあったかを感じることができました。

「勇払原野に生きた人々」では、苫小牧郷土文化研究会の山本融定会長が、勇払原野に開拓に入った人々からの聞き取り調査から歴史を振り返った報告でした。30年以上の調査によるデータは、記録テープ300本以上になるといいます。それだけに、説得力のあるものでした。

「勇払原野のぞむ苦東遺跡群」では、勇払原野が海だった頃、人々はどこで、どのような暮らしをしていたのか、縄文時代のこと、土器・住居跡・墓・貝塚など、発掘調査で得られた資料を50枚以上のスライドで解説しました。解説は、今年度から勇武津資料館と埋蔵文化財調査センター兼務職員になった赤石慎三学芸員で、定員を上回る参加人数でした。

ふるさと探訪は、「勇払の植物観察会」（8月）、「勇払歴史散歩」（9月）、「勇払海岸の漂着物調査」（10月）の3回実施されました。参加者は少ないものの、漂着物と植物調査は定点観察という意味で開館以来の継続事業です。

生活体験教室は、例年どおり8回開催しました。5月5日の「竹トンボをつくろう」から「縄文ペンダントをつくろう」などの定番に加えて、毛糸で3～4cmサイズの「ミニチュアぞうりをつくろう」や、本格的な和風のキットを使った「凧をつ

くって揚げよう」が実施されました。

人気があったのは「石臼を引いてそばがきをつくろう」と「くん製づくりに挑戦」の食べ物関連でしたが、全体的にはこどもから大人まで、「機織体験教室」（3回）も加えると112人の参加がありました。

二階堂 啓也（事務員）



上：「勇払千人同心の足跡を辿る」を語る3名の「勇払冒険野郎」  
下：「竹トンボをつくろう」で資料館前で飛ばすこどもたち

## 館長コラム

### 「ボランティア活動」

市民待望の美術博物館がオープンして1年を迎えました。今年度は特別展をはじめ、5回の企画展を開催し、多くの皆様にご来館いただきました。こうした展示会を支えていただいているのが、ボ

ランティアスタッフです。当館ではリニューアルを機にワークショップで討議された、市民と協働した美術館活動を実現するため、ボランティア制度を導入しました。現在、応募された36名と美術館友の会ボランティア部16名の方が活動されています。普段は監視ボランティアを通して、観覧者の様子や意見など貴重な情報を職員に伝えていただいております。

また、先日開催された意見交換会では、様々な取組みについて職員と熱心な話し合いが持たれるなど、着実に連携が深まっていることが伺えました。当館では今後も支援して下さるボランティアの皆様のお力をお借りして、市民の皆様親しまれる館を目指すべく努力して参ります。

荒川 忠宏（館長／地形）

## 平成27年度 展示会情報

### 特別展

## 花ひらく近代洋画の世界

9月19日（土）～11月29日（日）



安井曾太郎《女と犬》1920年  
公益社団法人 糖業協会蔵

### 企画展

#### ■旭川市彫刻美術館所蔵

#### 日本近現代彫刻名品選—ロダンから現代へ

4月25日（土）～6月14日（日）

#### ■こどもとおとなのミュージアム

#### 地底旅行—地下資源をめぐる科学と美術の旅

7月4日（土）～9月6日（日）

#### ■NITTAN ART FILE：インスピレーション

12月12日（土）～1月31日（日）

### 収蔵品展

#### ■ハスカップ—原野の恵みと描かれた風景

#### ／タマサイ—つながりの美

2月13日（土）～3月13日（日）

### 中庭展示

#### ■vol.5 藤井忠行 5月2日（土）～9月6日（日）

#### ■vol.6 高臣大介 9月19日（土）～12月27日（日）

\* 展示会の名称及び内容、時期等は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

## 担当学芸員にききました！

### PR 次回特別展

Q どのような展示会ですか？

— 昭和初期の日本の洋画を紹介する展示会です。西洋由来の手法である油彩でありながら、「日本的」といわれる独特の表現がみどころです。とても個性的な作品ばかりですよ。

Q どんな作品がみられますか？

— 梅原龍三郎、安井曾太郎、須田国太郎など、昭和に活躍した画家たちの作品、54点を紹介します。いずれも名品ぞろいです。この機会にぜひお越しください。

福田 絵梨子（学芸員／美術）

## 収蔵資料紹介 展示室から

### 「埋まっていた舟」



北海道指定有形文化財「アイヌの丸木舟および推進具」は、当館常設展における重要な資料です。開館当初から資料解説とアイヌ民族が漁労や交通の手段として舟を使用する絵図を用いて紹介に努めてきましたが、昨年度、画像情報を充実させ展示を更新しました。新たな展示ではタッチパネルを使い「埋まっていた舟」「計測値一覧」「見つかった場所」などの6項目の情報を閲覧することができます。秦憶丸による「蝦夷島奇観」「蝦夷生計図説」所収の絵図と資料の対比や松浦武二郎の「東西蝦夷山川地理取調日誌」「再航蝦夷日誌」に記された「勇払越え」との関連性など丸木舟の歴史的な意義や使用された時代背景をより詳しく知ることができるようになりました。また、昭和41(1966)年の発掘調査の様子や宅地化が進む沼ノ端地区の航空写真に舟が発見された勇払川旧河道の地点を示し、資料そのものをより身近に感じていただけるようになったのではないかと考えています。

武田 正哉（学芸員（主査）／歴史）

### ■編集後記

今年も美術博物館だより発行の時期となりました。各ページに所せましと並べられた記事からは、当館スタッフの熱い思いがひしひしと感じられたのではないのでしょうか。次号も乞うご期待ください。

佐藤 麻莉（学芸員／歴史）

苫小牧市  
美術博物館だより

平成27年3月31日発行・第2号

編集・発行：苫小牧市美術博物館 〒053-0011 苫小牧市末広町3丁目9-7

TEL 0144-35-2550 FAX 0144-34-0408

URL <http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>